

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470500675		
法人名	有限会社 介護センター田中		
事業所名	グループホーム渚園		
所在地	津市柳山津興382-4		
自己評価作成日	平成30年8月20日	評価結果市町提出日	平成30年10月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/houkoku/24/index.php?action=houkoku_detail_2018_022_kihon=true&download=excel
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成29年10月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎朝、職員と一緒に掃除、洗濯、食材の買い物、料理、配膳等に参加する。各自ができる範囲で得意な事を行い、各々の役割を持つことで自信を取り戻し、メリハリのある生活リズムを作り、毎日が張り合いのあるものにしていただけるよう支援している。出来る事はしていただき、出来ないところをお手伝いする。という様に、一人ひとりのペースや思い、考えを大切にしながら支援することを心がけている。食事は、買い物からすべて入居者様と一緒に職員が行い、園内で職員と入居者様が手作りをしている。季節感を大切に、常に新鮮で出来立てを食べていただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、海岸近くに立地し中庭を挟んで平屋作りで2ユニットである。玄関に入ると「和」を強調した和室で家族等来訪者の談話室があり、家庭的な雰囲気の中で運営されており、「自分らしく暮らす」を理念とし、「自然に暮らす」を支援の方針としている。認知症ケアに見識と豊富な経験・高齢者福祉に篤い思いを持ち地域社会とのつながりを大切にしているホーム長の下、利用者の意向や思いに寄り添い、職員は笑顔で利用者の目線で優しく接している。また 残存能力を引き出す事によって 自信を持ち心身ともに健康を保っており、利用者個々の役割を持つことで認知症の症状も穏やかになっている。利用者の明るく、穏やかで生き生きとしている姿は、安心して過ごしている様子が伺える事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で「自分らしく暮らす」を理念とし、利用者主体を心がけ、実践している。	日々のミーティングでケアの振り返りを行い、地域の中で「自分らしく暮らす」の意義を踏まえ、職員間で理念の共有を行い、利用者が自然な形で生活していくことを目指した支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	老人会、自治会の行事、地域の祭り等に参加したり、地域の方々とはふれあいをしている。	地域のイベントや祭りに利用者も参加し地域の方々とは挨拶を交わしたり、日々近隣の散歩中に挨拶をする等交流の機会が多い。着付けや琴演奏の地域のボランティアや保育園児との交流、中学生の職場体験、短大生の実習受け入れもしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、行えていない為、今後努力していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、自治会役員、家族会代表に来ていただき、開催している。会議での意見は職員へ伝え、サービス向上に活かしている。	グループホーム・デイサービス合同で数回開催し、自治会主催の夜間見守り時にホームを見回っていると報告を受けたり、近隣のスーパーに出かけた若年性認知症の理解を促す会議になっているが、定期的に(年6回)開催されていない。	外部の方の目を通して事業所の取り組みや具体的な改善の課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得る為の貴重な機会である為、開催方法と合わせ、年6回開催されることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、事業所の取り組みを理解してもらっている。	ホーム長が三重県社会福祉協議会や市主催の講演会の講師や認知症コールセンターの相談役をしており、市・町担当者との協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしてはいけない事を職員はよく理解しており、日頃から世の中の出来事についても話し合っている。	身体拘束・言葉の拘束の内容をすべての職員が認識し、優しい声掛けや気配りを心掛け支援に取り組んでいる。実践の場において職員一人ひとりが「利用者の目線で考えたらどうなるか？」と問いかけたり、討論したりして身体拘束のない支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、身体拘束をしてはいけないことを理解しており、ミーティング時にも話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、成年後見制度をきちんと理解し、権利擁護を守っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改正の際は、十分理解し、納得していただけるよう、きちんと口頭、文書等で説明し、その後もいつでも質問ができる体制をとっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置やケース会議等に参加して頂いたり、電話やメール等でいつでも質問や意見を受けられる体制を整えている。	渚園便りに担当職員が利用者の状況を一筆記入をして毎月送付し、家族に理解してもらったり、面会時やメールで意見を聞いている。家族からの意見や要望は全職員で共有し、事業所の運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等だけでなく、常に意見や提案を交し合っている。	朝の申し送り時やミーティング時、月1回の事業所内勉強会、職員会議で意見や提案が出しやすい環境の中で、全職員が何らかの意見は出している。出た意見や要望は、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の努力や実績、勤務状況をきちんと把握し、働きやすい環境等の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を行ったり、外部研修に参加したりして、各々が技術を向上している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三重県地域密着サービス協議会に加盟しており、研修、勉強会に参加するなどし、サービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当ケアマネと連携を取り、本人の様子を把握している。入居前に、本人に来園していただき、要望や思い、困っている事、不安な事等を伺って、安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族に来園していただき、今まで頑張ってきた事、要望や思い、困っている事、不安な事等を伺って、信頼関係ができるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族、ケアマネの話をよく聞き、適切な支援を見極め、よりよいサービス利用ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人に敬意と尊敬をもって接し、暮らしを共にする同士の良好な関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、本人にとって家族がかげがえのない存在である事を充分理解している。本人と家族の絆を大切にしながら、家族と共に、本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が今まで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう、いつでも面会に来てもらったり、電話でお話ししてもらいやすい環境を作っている。美容院も馴染みのところに行く等の支援をしている。	面会時間をフリーにして夜間でも面会できるようにしている為か、「いつでも家族が来てくれる」と利用者の言葉が聞ける。事業所での生活が長い方は、新しい馴染みが生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を日常からよく観察し家事やレクレーションを通じて共にささえあい、孤立する人がいないように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙や電話のやりとりや、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常日頃から、本人や家族からの思いや要望を伺い、意向の把握に努めている。困難な方の場合、会話や、様子観察、言葉かけの工夫等で本人の希望を把握している。	体調や表情・行動、家族や親しい方からの情報の把握に努めている。日常の支援で利用者と関わる時間帯や、1対1になる入浴時間帯に聞く様になっている。把握した情報は、生活記録に本人の発した言葉で記入し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の思いや希望を職員が会話の中で把握するように努め、入居者様の真のニーズの追求を心がけている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりによく目を配り、日々変わる体調、心身状況を把握し、出来る事はしていただき、出来ない事は、無理のない範囲で出来るように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、ケアプランを生活の中に活かせるようにケア会議を行い、介護計画に活かしている。	業務日誌や生活記録の内容・受診時に把握した家族の思いや本人の思い・医師の意見をケース会議で全職員で話し合い検討しプランに反映している。モニタリングは毎月行い介護計画書は3か月に1回見直している。日々の状況・変化に注意しその都度見直しをする場合もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果、気づいた事などを個別に記録し、職員間で情報を共有して、ケアや見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域と深いつながりを作っていることにより、安心して散歩や買い物へ出かけることができる。利用者や家族の要望、意見等を聞いて、季節の行事に参加したり、お誕生日の食事会で外出したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの人と会ったり、美容室へ出かけたり、一緒に買い物や食事に出かけたりして、豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医のかかりつけの入居者は、月2回づつ往診を受けている。他入居者も必要に応じ、往診を受けている。従来のかかりつけ医の受診は家族が対応している。受信に職員が付き添う場合は、家族との連携を強化し、支援している。	従来のかかりつけ医に職員が付き添い受診した時には、電話で受診結果を家族に知らせ連携を密にしている。協力医には月2回の往診、歯科や眼科の往診もあり、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から本人の体調を把握し、看護師に伝え、看護師が情報を確認する。必要であれば、かかりつけ医より支持をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、早急に本人の情報提供を行い、病院関係者との情報交換に努めている。また、そうした場合に備えて、日頃から病院関係者との良好な関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の説明で、重度化した場合の支援について、本人、家族と話し合いをしている。実際そのような場面になれば、変化があった際に随時話し合い、家族、医者、介護士が協力して、本人が安心して過ごせるように支援する。	事業所で「重度化した場合・看取りについて」の研修を全職員受けている。「重度化の方針」を入居時及び状態変化時に家族に説明している。重度化した時に協力医・家族・事業所で話し合い、家族の希望があれば支援内容を決め看取りの支援をしている。昨年は2名の看取り支援をした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急隊員から救命講習を受けたり、研修で習ったことを職員間で伝え合っている。緊急時に対して話し合い、実践力を身につけるよう、心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中や夜間等、様々な時間帯の災害を想定して訓練を行い、効率よく安全に避難できるように確認している。また、地域との協力体制も築いている。	年2回防災訓練を実施している。いつ起こるかわからない地震・津波等の災害に備えリヤカーを購入したり、地域住民の協力体制を全職員間で話し合いをしている。津波の不安がありライフジャケットの設置等、出来る範囲の取り組みは出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から言葉遣いには注意している。特に、トイレや入浴時には羞恥心に配慮し、一人ひとりの尊厳あるケアに心がけている。	入浴時や排泄時の声掛け対応は、自尊心を傷つけない様に周囲に気配りをして支援し、利用者の気持ちを大切に笑顔で接している。各居室の入口に個性的な「のれん」を事業所が準備し、個々のプライバシーを保っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から積極的にコミュニケーションをとり、信頼関係の構築に努めている。本人が気軽に思いや要望を表したり、自己決定ができるような環境づくりをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、本人の希望を重視している。希望に添えない場合は、必ず説明し、了承を得るまで、話し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	これまでの生活が維持できるように、化粧品を揃えたり、定期的な散髪、日々の髪型のセットなど、その人らしい身だしなみやおしゃれに心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	広告を見てメニューを考えたり、一緒に買い物に行き、能力に応じて食事の準備、盛り付け、後片付け等、楽しみながら出来るように支援している。	利用者の持っている力を活かす為準備や片づけを職員と一緒にし、食事に関心が持てる様に参加できる場面作りを工夫している。個々の好みや健康状態に応じた献立を考えて、職員も一緒に食事しながら和やかな食事時間となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、栄養バランスを考えながら献立をきめている。一人ひとりの状態や食べる量と形態を把握し、職員間で情報を共有して、ここにあった支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の力に応じて自発的に口腔ケアをして頂いている。同時に口腔内の状態をチェックし、不具合などがあれば、随時歯科往診の依頼をしている。義歯の方は、夜間預かり、洗浄液につけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の使用にて、一人ひとりの状態を観察し、排泄パターンを把握している。トイレで排泄することを基本に支援しており、おむつは使用していないが、体調不良の時に使用することもある。	尿意のサインや個々の排泄パターンを全職員が把握し、トイレ誘導によりトイレで排泄できるように支援をしている。ホーム恒例の一泊旅行では、家族や職員の気遣いで失禁される方はいなかった。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給に気を付けたり、乳製品、食物繊維の多い食品等を取り入れることにより、便秘予防をしている。また、毎日の運動や腹部マッサージにより、便秘の解消に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日はおおむね決まっているが、毎日でも希望により入浴できる体制をとっている。入浴が楽しめるように、個々に合わせて対応をしている。	基本ユニット毎に交替で週3回の入浴を実施している。個々のこだわりや順番等は入浴表を作り誘導し、入浴が楽しい時間となり不平が出ない様に工夫している。洗身タオルは個人持ちで、柚子湯で季節感を味わう等楽しい入浴となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を増やし、昼夜逆転のない生活習慣づくりに努めている。一人ひとりの生活習慣、体力などに合わせ、気持ちよく眠ることができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	おくすり手帳を一人一冊作り、個々の内服薬の作用、副作用について、随時確認している。状態の変化があれば、看護師、かかりつけ医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴に合わせた楽しいみ事を考え、お誕生会を行ったり、生花、茶道の先生に来てもらって、気分転換活動に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日は近くの海岸まで散歩をしている。個々の希望を聞き、食料品やお花を植えるために土や肥料を買いに行ったり、外食や外出をしている。毎年入居者、家族、職員とで、一泊旅行に出かけている。行き先は入居者様の希望で決まる。	利用者の希望を聞き、毎年家族と一緒に1泊旅行に出かけている。日頃は近隣の散歩も楽しんでいる。家族の協力で、買い物や美容院に出かけて気分転換している利用者もいる。今年も1泊旅行の計画中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は、家族と話し合いのもと、お小遣いを持っており、いつでも使えたり、自己管理ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話ができる方は、いつでも自由に電話がかけられるようにしている。また、出来ない方は、職員が介助し、会話していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月に1度、生け花の先生にきていただいて、生け花教室を行い、ご自分で生けていただいたお花を、部屋に飾っている。木を基調とした内装であり、和紙のブラインドで光を和らげ、心地よさを提供している。	常に利用者が集まっている居間兼食堂は、木造家屋で吹き抜きの天井で広くて明るい。月1回の生け花教室で利用者が活けたお花がテレビ横に飾られ、生活感が味わえる。廊下には利用者の作品(お月見の貼り絵)が飾られ、中秋の季節が感じとれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、椅子やテーブルを置き、居場所の提供に心がけている。テレビ前のソファでは、気の合う者どうして、思い思いに過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から使っていた馴染みのタンスや鏡台、写真等を持ち込んでもらい、慣れ親しんだ環境づくりをしている。部屋の中にはボードを用意し、お気に入りの写真を貼ってもらっている。	孫から送られたぬいぐるみ・鏡台・懐かしい筆筒等、本人の気持ちを確認しながら整理整頓され、清潔で居心地良い居室空間となっている。自宅で使用していた物が置かれ、個々自立した生活が送れるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの「できること」「わかること」を把握し、自立に向けた支援を心がけている。椅子も、ひじ掛けが必要な方にはひじ掛け椅子を用い、本人が自分で食事ができるように支援している。		